

○議長（岡 弘悟君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番14、15番 中本君。

〔15番（中本正人君）登壇〕

○15番（中本正人君） それでは、刷新クラブ最後の質問者として、通告に従いまして、一般質問を行います。私は今回、2項目について、お伺いしたいと思います。

まず、1項目めとして、岡潔記念館開設計画について。

市は記念館開設を含め、岡先生の偉業を伝えていこうと、平成25年度に岡潔顕彰基金を設立。当初は新築を予定していたが、財政難から既存の建物を活用ということで、平成27年に杉村公園内の松林荘を改修し、31年オープンという方針を固めた。しかし、松林荘は昭和14年に建設されたものであり、記念館としての整備に耐震補強等で約3,000万円の改修費が必要ということで断念することになったと聞いています。

本市として、今後、記念館建設をどのように考えているのかをお伺いしたいと思います。

2項目めとして、橋本市の道の駅整備について、お伺いします。

全国で道の駅は1993年で103箇所であったが、2013年には1,000箇所を超え、2015年には1,059箇所であります。和歌山県では今年4月、四郷のくしがきの里がオープンしました。

紀北地方では、かつらぎ町で4箇所、九度山町で1箇所、しかし、橋本市では1箇所もないということです。前市長時代において、杉村公園内に道の駅をという話もありましたが、諸条件により実施できなかつたと聞いています。

橋本市内に道の駅を整備することが本市の経済効果、活性化につながると思いますが、当局の考えをお伺いしたいと思います。

明解なる答弁をお願いいたします。

○議長（岡 弘悟君） 15番 中本君の質問項目1、岡潔記念館の開設計画に対する答弁を求めます。

教育部長。

〔教育部長（曾和信介君）登壇〕

○教育部長（曾和信介君） 岡潔記念館開設計画について、お答えします。

岡潔先生は大阪市で生まれ、戦時中を中心に、しばらく父祖の地である橋本市柱本の紀見峠に住まいされていました。

先生は、多変数解析函数の研究に打ち込まれ、昭和26年には日本学士院賞、昭和35年には文化勲章が贈られ、橋本市からは昭和36年に橋本市名誉市民の称号をお贈りしています。

平成21年に数学ワンダーランド基本計画が提案され、同年、橋本市岡潔数学WAVEが設立されるなど、平成20年代から岡先生の業績を顕彰し、後世に残していこうという機運が高まり、その中で岡潔記念館の構想も浮上してきました。

当初は先生が生活された建物を利用するという案があり、この建物面積が約100㎡の規模であったことから、記念館はこの規模を想定していました。

平成25年度に岡潔顕彰基金を設立、平成27年には、杉村公園内の生活学習施設、松林荘を改修し平成31年にオープンする方向で計画され、ガバメントクラウドファンディングを実施しました。しかし、松林荘は昭和14年の建築で、記念館として整備するには耐震補強の改修が必要となり、断念せざるを得なくな

りました。本年6月には、橋本市岡潔数学WAVEが理想とする記念館の平面図を作成、2階建て400㎡の記念館イメージが提案されています。

橋本市ゆかりの偉人には、オリンピック金メダリストの前畑秀子、古川勝、江戸時代の土木技術者、大畑才蔵などが知られ、他の偉人と一緒に顕彰する偉人館の構想もあり、今後については、これまでに出了された案に加え、学校の空き教室を利用することや古民家を活用する方法などさまざまな案を検討し、実現できるよう取り組んでまいりたいと考えます。

なお、平成25年度に設立した岡潔顕彰基金は平成25年度には82万2,000円、平成26年度には178万2,000円、平成27年度には250万円、平成28年度には81万8,000円、平成29年度は10月末現在で15万2,000円のご寄附をいただき、その合計は607万4,000円となっています。

○議長（岡 弘悟君）15番 中本君、再質問ありますか。

15番 中本君。

○15番（中本正人君）ありがとうございます。

ただ今の答弁を聞いていまして、ちょっとお聞きしたいことは、岡潔先生の業績を顕彰して、そして、後世に残していこうという機運が高まったという答弁がありましたけれども、この機運が高まったというこれは、市民の方からか、それとも行政当局の中からか、それとも、数学WAVEの中からか、その辺をちょっとまずはお聞きしたいと思います。

○議長（岡 弘悟君）教育部長。

○教育部長（曾和信介君）岡記念館の構想とかその辺の盛り上がりにつきましては、市民の方の任意の団体であります数学WAVEから、岡潔先生の顕彰事業として、そういうことについて盛り上げていきたいということのご要望を受け、市としてもその方向で進んだ

ものと認識しております。

○議長（岡 弘悟君）15番 中本君。

○15番（中本正人君）ありがとうございます。

私もこの岡潔というお名前は半世紀以上から知っていました。と言いますのは、私が中学2年生のときの担任の先生が、岡先生とご親戚ということで、事あるごとに、文化勲章をもらった岡潔、世界的数学者、岡潔ということをしよっちゅう私たちは耳にしました。

しかし、当時の私たち、中2、14歳ではどんな人かも知らないし、ただ、岡潔って文化勲章をもらった人やな、世界的な数学者なんだなということしかなかったです。しかし、今こうして、実質で言えば半世紀以上、55年になります。しかし、今こうして、この場でその岡先生のことを議場で質問するというのも、これも何かご縁があるのかなと私なりに解釈しております。

さて、ここでお聞きしたいのは、平成25年に岡潔顕彰基金が設立しました。当初の目標額というんですか、これはどのぐらいに考えていたのか、それをまずお聞きしたいと思います。

○議長（岡 弘悟君）教育部長。

○教育部長（曾和信介君）平成25年の9月議会に顕彰基金の条例を上程させていただいてございます。そのときにも同様のご質問をいただいたところでございますが、目標額については特に設定はしていないということでございます。

○議長（岡 弘悟君）15番 中本君。

○15番（中本正人君）目標額は設定していないということですよ。1回目の答弁でありましたように、当初は100㎡ほどの建物と、そして、岡先生の生活していた建物を再利用して等々もありましたけれども、そして、平成27年ですか、松林荘ということもありましたけ

ども、これも古い建物ということで断念。

結局、私から言いますと、失礼ですけど、やはり計画が甘いというんですか、それは、基金の目標金額も設定しないで、いくら集まるかわからないものに対して、何か甘いんじゃないのかなと。我々個人でも家を建てるとしたら、どれぐらいの、自分とこの予算を考えて、どれぐらいのものを建てようかなというふうに考えますよね。しかし、当局ともあろうところが、予定金額も目標金額も設定しないで基金を設立するという事は何か私、おかしいなと思います。

その中で、先ほど答弁がありましたように、前畑秀子さんや古川勝さん、そして、大畑才蔵さん等の偉人の偉人館の建設もあり得るというお話が出ましたけども、この偉人館を仮に建設するとしたならば、だいたいいくらぐらいの建設金額を、費用を見ているのか、それをお伺いしたいと思います。

○議長（岡 弘悟君） 教育部長。

○教育部長（曾和信介君） 偉人館構想につきましては、かなり以前からございました。今、再度の検討ということで始めておるところでございますが、建設場所、それから、経費については今のところ未定でございます。

それから、先ほど基金の設定目標につきまして、平成25年の設立当時には、先ほど申したように目標設定はございませんでしたが、平成27年度の松林荘を改築するという事での概算の費用としては3,300万円を想定しております、寄附としまして1,860万円程度を集めていきたいということでの計画はございました。

以上でございます。

○議長（岡 弘悟君） 15番 中本君。

○15番（中本正人君） はっきりした、きっちりとした計画も、金額も設定されていないということだと思っておりますよね。その辺がちょ

っと私は残念に思うんですけども。

それはそれとして、今現在で基金額は607万4,000円ですか、この岡潔の顕彰基金は今後もしも続けていくんですか、どうですか。その辺をお伺いします。

○議長（岡 弘悟君） 教育部長。

○教育部長（曾和信介君） 記念館建設につきましては、めざしていくということでございますので、またそれから、その建設の後についても活用していきたいということでの基金でございますので、続けてまいりたいと考えております。

○議長（岡 弘悟君） 15番 中本君。

○15番（中本正人君） わかりました。これからも継続していくということですよ。

これ仮の話ですけども、先ほど偉人館建設のお話もありましたけども、仮にこの岡潔記念館がもし断念するという事になった場合、これ今まで岡潔記念館に協力していただいた方々にどのように説明するのか。そして、この金額はどのように使われるのか。その辺について、お伺いしたいと思います。

○議長（岡 弘悟君） 教育部長。

○教育部長（曾和信介君） 偉人館のお話をさせていただく前に、直近といいますか近々の状況について、ちょっと一点ご報告をさせていただきたいと思っております。

実は、地元の紀見峠区のほうから、区域内に岡記念館をというようなご提案がございまして、今のその現実の可能性について、紀見峠区、それから数学WAVEとの協議を開始して、早急に検討してまいりたいというのが一点でございます。

そういう意味から見ましても、先ほど偉人館ということでのお話もさせていただいておりますが、当面としましては、この岡潔記念館の単独館について、紀見峠区及び数学WAVEとの検討をしてまいりたいと考えてご

ざいます。

その上で、基金のことにつきましては、目的のある基金でございますので、他のものへの財源的な使用はできないかとは考えております。ただし、岡記念館を含む偉人館ということでございまして、その方法を活用できないか等につきましては、今後も検討してまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（岡 弘悟君）15番 中本君。

○15番（中本正人君）この岡潔顕彰基金はもちろん岡潔記念館に使うということですよ。そして、今お話、きのうちちょっと部長からお話を聞いたんですけども、紀見峠のほうで1軒何かそういうお話があるということは、これも非常にうれしいことだと思いますけど、これはこの空き家を利用させてもらって記念館を建設していくんだというふうに捉えていいんですか。

○議長（岡 弘悟君）教育部長。

○教育部長（曾和信介君）まだどういう利用の仕方等につきましては、今後、紀見峠区及びそれから数学WAVEとの協議となりますので、具体的な内容につきましては、この場ではちょっとお答えは差し控えたいと思っております。

○議長（岡 弘悟君）15番 中本君。

○15番（中本正人君）結局、私が言いたいことは、岡潔記念館もしくは偉人館等の建設はやってくれるということは私はわかります。しかし、これ先ほども答弁にあったと思えますけども、一応は松林荘をはじめ考えた、計画したときに、オープンを平成31年ということと言ってましたよね。しかし、それからそれも断念ということの中で、それから以降、全然それ、いつ頃できるのかという、何にも見えてこない。

ということの中で私は耳にするのは、岡潔

記念館に、寄附に協力していただいた方々から、いつ頃できるのかな、ほんまにできるのかな、そして、もしできへんだら、この寄附したお金はどうなるのかなという、言葉は悪いけど、中には、もしできへんだら、もしほかに使うんやったら詐欺やなという言葉もありました。

しかし、私はその人に言いましたけども、そういうことは絶対、市当局はそういうことはしませんと。もし仮に、そのときは、もちろん説明責任は説明させていただいて、返金するなり、どこかに使うことを了解してもらうなりということは、それはもうもちろん当局としてしますから、その辺は心配しないでほしいということです。

しかし、私の言いたいのは、そしたら、やっていただけるというのは私も確信しております。しかし、それでしたら、今すぐとは言いませんけども、それならば何年後に、何年以内に建設するんだということをやはり聞かせていただかないと、やりますと言っても、これが5年先なのか10年先なのか、例えばですよ、そうなりますやんか。

そやから、最低何年以内にはやりたいな、やりますということをお聞かせ願えませんか。多分その辺の気持ちは持っていると思うんです。ただやりますから待ってくださいというだけではないと僕は思うんですけども。そやから、最低何年以内には岡潔記念館、もしくは偉人館。私はその偉人館というのは、それも言い方ですけども、やはり岡潔を考えてほしいなと思えますけども、それはやっぱり、最低何年以内にはさせていただくというところだけ、もう一回お伺いします。

○議長（岡 弘悟君）教育長。

○教育長（小林俊治君）お答えさせていただきます。

数学WAVEの方々とその基金についてい

ろいろお話をして、検討を重ねてきているところですが、ただ、先ほど部長のほうから答弁させていただきましたように、紀見峠周辺にそういう記念館をつくれれば、情緒の道との隣接もありますし、いろいろ橋本市の観光としてPRもできるし岡潔先生の顕彰もできるということで、協議を重ねているところです。

ただ、調整といえますか、いろいろな意見もございます。考え方もございますので、いつという期限はなかなか切りにくいんですけども、私たちとしては早急に意見をまとめて、一定の方向性をお示しできる時期を模索しています。なるべく早く、またお知らせできるように尽力していきたいと思っています。

○議長（岡 弘悟君）15番 中本君。

○15番（中本正人君）その辺は十分、数学WAVEの皆さんに対してもちゃんと説明はしてください。と言いますのは、数学WAVEの皆さんは本当に熱心に取り組んでいただいております。先週の3日ですか、岡潔の顕彰囲碁・将棋大会も開催されましたよね。そして、この10日には岡潔の顕彰講演会が開催されると。本当に熱心に取り組んでいただいております。

私の聞いたところ、余談ですけども、岡先生は今でいえば将棋でも5段ぐらいの腕前があったというふうに聞いていますけども、そういう中でやはり数学WAVEの皆さんに、本当に熱心にやっていただいておりますので、その辺の話し合いはきっちりとしていただきたいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

さて、ここで田辺市の偉人、南方熊楠、その人の記念館が、田辺市にはもちろんですけども、白浜にもありますよね。これも知っていると聞いていますけど。しかし、先ほどもしましたように、岡潔さんといえば文化勲章ももらった人ですよね。その人の記念館

がいまだに橋本市にないということは非常に寂しいということです。ですから、これもやってくれるのはわかっておりますけども、やはりできる限り一日も早く建設して、各地から、全国から見学に来ていただけるような記念館を建ててほしいというふうに感じます。

その中で、もう皆さんもご存じだと思いますけども、今度、読売テレビの開局60周年記念ドラマが、ちょうど岡潔先生夫婦のドラマがされます。これは今回、私がこの質問をするのを待っていたかのように、合わせていってくれたかのように、また、後押ししてくれるかのように、ほんで、ドラマをされるということです。

そして、俳優もすばらしい、そうそうたるメンバーです。私も今から来春を楽しみにしておるんですけども、そういうことで、やはり私が市長にもお願ひしたいのは、この岡潔記念館を全国に発信するためにも、できる限り、もちろん財政的な面もあるとは思いますが、その辺も考えて、その辺はもし今のお話、一戸建てですか、あれば、それはお金もかからないと思うし、うまくいけば、今の基金額でもある程度建設できるんじゃないのかなというふうにも考えますし、やはり1日も早い記念館を建設してもらえますようお願いしたいと思いますが、市長、どうでしょう。

○議長（岡 弘悟君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）中本議員の質問にお答えします。

紀見峠という話は、私は先日、行政報告会を開いたときに紀見峠の皆さんからそういうお話をいただきました。先ほど教育長が答弁したとおり、情緒の道のところにあるというふうな空き家ですので、そこを何とか活用する方法がないのかなというふうには、現在考

えています。

もう一つは、岡潔先生の子どもさんたちも非常に高齢化してきておりました、また、奈良市の名誉市民でもありますので、どれだけの実際の展示物があるのかということと、できるだけそれを早く橋本市に持ってきたいなという思いも持っています。

その中で今、今の財政的なことを考えますと、なかなか、先ほど教育長が申しましたように、いつ建設できるかというふうなめどは全く立っておりませんし、数学WAVEから図面もいただきましたけど、4倍の大きさになっていますので、果たしてそれは無理かなというふうに思っています。

今、偉人館の話もありますので、偉人館は私が勝手に言っているようなこともありまして、これだけ前畑秀子さん、古川勝さん、大畑才蔵さん、岡潔先生、そして、最近では陸奥宗光まで橋本市におったよというふうなこともありまして、これを一つずつ建てておいたらとんでもないことになりますので、まだそれについては全然めどもつけておりませんけども、できましたら、もし数学WAVEの皆さんの理解を得られるのであれば、一旦そこに岡潔記念館を、600万円の基金を使わせていただいて改修をしていくような形にできて、そこに資料を展示して開館したいなど。

また、たしか当初、数学WAVEでまたそういう寺子屋的なことをやるという計画やったと記憶しておるんですけども、それを逆に、そこで不可能なら、柱本小学校の空き教室を使って土日にそういうものを作ってもらうという方法もあるのかなというふうには思っています。

もし、数学WAVEに場所を見ていただいて、ここで一旦開館しましょうというようなご意見をいただけるのであれば、基金も使わせていただきながら、個人の所有のものなの

で、当然、減免措置も考えらなありませんし、使用料も払っていくというふうなことも考えていかなあきませんので、まず、近々見ていただけるということになっておると聞いていますので、その中で開館に向けた動きと、資料をそこに展示できるような形をまずやっていきたいなというふうに思っています。

ただ、了解がいただけなかったら、これはいつと言われてもなかなか、先ほどからのたくさんの、この今議会でも、これをやれ、これをやれ、これをやれというような、これをやらなければならないというふうな予算もたくさん出てきておりますので、その中で何を優先させていくということを私も考えていかなあきませんので、その中でまた、どういう方法がいいのかというのを検討していきたいと思っておりますので、ご理解をお願いしたいと思います。

○議長（岡 弘悟君）15番 中本君。

○15番（中本正人君）よくわかりました。

ですから、私の申し上げたいことは、やっぱり数学WAVEの皆さんが非常に本当に熱心に取り組んでいただいておりますので、やはり皆さんに納得できる説明をやっていたきたい。その上でやっぱり理解していただきたいということを要望して、終わりたいと思います。

○議長（岡 弘悟君）次に、質問項目2、道の駅の整備に対する答弁を求めます。

経済推進部長。

〔経済推進部長（笠原英治君）登壇〕

○経済推進部長（笠原英治君）橋本市の道の駅整備についてのご質問にお答えします。

道の駅は日本の各自治体と道路管理者が連携して設置し、国土交通省により登録された、商業施設、休憩施設、地域振興施設、駐車場等が一体となった道路施設であり、道路利用者のための休憩機能、道路利用者や地域の

人々のための情報発信機能、道の駅を核としてその地域のまち同士が連携する地域の連携機能という三つの機能をあわせ持っています。

昨今、長距離ドライバーが増え、女性や高齢者のドライバーが増加する状況のもと、道路交通の円滑な流れを支えるため、一般道路にも安心して立ち寄り、利用できる快適な休憩のための空間が必要となってきました。

また、人々の価値観の多様化により、沿道地域の文化、歴史、名所、特産物などの情報を活用した、多様で個性豊かなサービスも求められてきました。

地域にあっては、休憩施設が個性豊かなにぎわいのある空間となって、地域の核ができ、活力のある地域づくりや道を介した地域連携の促進などの効果が期待されています。

こうしたことを背景として、24時間利用可能な一定数の駐車スペース、トイレ、24時間利用可能な電話、情報提供施設を備えた施設であることが道の駅の登録条件となっています。

また、多くの場合、道路や地域の情報を提供する案内所が置かれ、その他、地域の自主的工夫のなされた施設が設置され、文化、名所、特産物などを活用した農産物直売所、売店、レストランなどのサービスが提供されています。

近隣市町村の道の駅の設置にあたっては、道の駅の機能の一つである、特産物などを活用した農産物直売所を設けるため、農林水産省の農山村活性化プロジェクト支援交付金の地域連携販売力強化施設の補助事業と過疎債を充当し、設置している事例があります。

本市における農産物直売所としては、紀北川上農業協同組合が経営するファーマーズマーケットやちゅん広場があり、農業協同組合の直売所としては、平成28年度の売上高が12億4,500万円と全国で19位となっています。

また、農事組合法人くにぎ広場・農産物直売交流施設組合では、はたごんぼを主力製品に、平成28年度実績では2.5t、果樹、野菜、弁当、総菜などの加工品も販売しています。

このような農産物直売所が橋本市内に現在12箇所あり、農家所得の向上に大いに寄与しています。

今後、農産物の作付面積の増加などが見込めれば、現存する農産物直売所の拡張を含め、道の駅の登録条件に合致せずとも、駐車スペース、トイレを備えた小さな農産物直売所の設置も視野に入れ、研究していきます。

○議長（岡 弘悟君）15番 中本君、再質問ありますか。

15番 中本君。

○15番（中本正人君）前向きな答弁をいただいたと私は理解しております。この道の駅はやはり、さまざまな効果があるということで、その辺は理解していただいているんだなというふうに思います。

その中で、今、答弁していただきました中で少しお聞きしたいことは、道の駅のあれに合致しなくてもという言葉がありましたけども、その合致しなくてもという、その辺の意味が私はわかりにくいので、少し説明していただけますか。

○議長（岡 弘悟君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）壇上でもお話しさせていただきました、道の駅の登録条件であります、24時間利用可能な一定数の駐車スペース、それと多目的トイレが整備されたトイレ、24時間利用可能な電話、情報提供施設を備えた施設などを全て、本来はクリアしてなければ道の駅登録をいただけないわけなんですけど、そういったことを全てクリアしていなくても、小さな農産物販売所を兼ねた、例えば、くにぎ広場やエコパーク紀望の里、こういった現在ある農産物販売所の事業拡張

を事業者や運営者が行っていただけるのであれば、道の駅の類似施設として位置づけすることができるのではないかとこのように考えております。

そういう、ある程度、施設が充実された折には、例えば、和歌山県の観光マップやホームページに掲載いただけるようお願いし、広く内外に情報発信していきたいと考えております。

○議長（岡 弘悟君）15番 中本君。

○15番（中本正人君）そういうことですよ。というのも、私もこの道の駅の条件についてはそんなに、お金は別にしまして、本当に難しい状況でないのかなと私は感じていましたが、先ほどの答弁を聞かせてもろて、何が合致しなくてもいいのかなというふうにも感じたので、お聞きしました。よくわかりました。

それで、私は1回目でも質問させていただきましたけども、近隣市町村では、九度山町で2箇所、かつらぎ町で4箇所、そして、紀の川市では青洲の里ですか、1箇所ありましたよね。そういう中で、やっぱり橋本市で1箇所もないということは不自然だと思います。

そして、今、当局のお考えでは、橋本市は道の駅はありませんけども、やっちゃん広場もあれば、くにぎ広場もあると。そして、市内には12箇所の野菜、農産物の直販所があるというふうに言われています。それはそれで私、いいんですよ。しかし、私の言いたいのは、道の駅を設置してほしいということでありまして、特に、やはり国道24号より北、北部へやってほしいなというふうを考えるわけです。

私の知人で九度山の人で、どうして中本さん、橋本に道の駅をつくらんのかよく言われます。そして、場所まで指摘してくれます。それはやはり、京奈和自動車道の橋本の付近。私は本当に、ああ、この場所ならいいなと思

いますし、私は個人的にはやはり御幸辻、杉村公園の東側、国道371号沿いに今、整備していますやすらぎ広場ですか、あの辺にでもできればいいのになというふうを考えておるんですけども、その辺について、どうでしょうか。

というのは、やっちゃん広場でも年間40万人からの来客が来るといふに聞いていますよね。市長、これについてやはり、本市の活性化、地域の活性化等々を考えてみましたら、やはり道の駅というのはぜひすべきじゃないのかなと、私はそう思うんですけども、部長でも結構ですけども、この辺はいつぺん一度、副市長、ちょっとご意見をお聞かせ願えますか。お願いします。

○議長（岡 弘悟君）副市長。

○副市長（森川嘉久君）今、ご指摘いただいた点につきましては、議員もよく経過はご存じのことかなというふうには思っておるんですけども、前の木下市長の時代に、御幸辻の杉村公園の駐車場に兼用して、あのあたりに休憩所、それから物販の販売所、あるいは食事もできるようなところというようなことで計画をしたところではございました。商工会議所のほうでも、その当時、かなり立派な構想を立てていただいた経過があったというふうには思っております。

しかしながら、残念ながら、運営をどこがそうしたら担っていただけるかということの検討に入ったときに、地元でも、農業をされておる方もおりますので、そういうところから物販、特に農産物になろうかと思っておりますけども、出荷をしていただけるのかな、それから、ひょっとしたら運営も担っていただけないかなというような、ちょっと聞き取り、協議もさせていただいたんですけども、残念ながら、地元の方というのは比較的、野菜等をつくっておられる方は少ないようでしたの



で、それはちょっと難しいよと。そうしたら、商工会議所のほうで大きな構想をつくられたので、担っていただけますかというお話も相当深く詰めさせていただいた経過があったと思いますけども、残念ながら、そこも詰め切れなかったという点がございまして、運営者の点でまずちょっと詰まってしまったということがございます。

さらに、その部分については社会資本総合整備事業で進めてきておりますけども、残念ながらちょっと国のほうで、この事業については予算が縛られてきておりまして、現在も苦慮しておるところなんですけども、なかなか予算確保というのも難しい状況に至ってしまっております。

さらに、ちょっと都市計画の制限の関係で、あの部分については、現時点ではなかなかそういう施設を建てられない地域になっておりまして、これは今後、解消はしていけるというふうには考えてはおりますけども、現時点ではなかなか進めにくいというような、いろんな障害がありまして、議員もご指摘のとおり、適地ではあるというふうには思っておるんですけども、残念ながら、そのあたりで行き詰まってしまっておるのが現状かというふうには思っております。

先ほどからもご答弁させていただいておりますように、縦軸の国道371号に沿ったところに、高野山への登り口でもありますので、休憩所なりは必要であるとは思いますが、できればかなりのご利用が期待できるのかなというふうには思うとるんですけども、そこはちょっと詰まってしまったんですけども、先ほどからもご答弁させていただきましたように、くにぎ広場については市のほうでも、これは投資をさせていただいて、駐車場、それからトイレという形で、24時間使用というところがちょっと若干できないんですけども、地元

の方も熱心にこちらのほうはご協力をいただきまして、何とか、市も投資するし、今、くにぎ広場として地元の方を中心に頑張っていたいておる状況でございますので、こちらのほう、まだちょっと通過交通量が若干、河南農道が全通しておりませんので、高野山まで直通というわけにはまいりませんので、少ない交通量の中で頑張らせていただいておりますけど、今後こちらのほうは、全通すればかなり交通量も増え、今以上に地域振興、あるいは、くにぎ広場についても若干、経営状態もよくなるのかなというふうには考えております。

そういう意味で、1箇所はできたんですけども、先ほどから一番適地であろうと言われるところについては、残念ながら現時点ではこういう状況でございますので、ちょっとしばらくの間そういう見通しは立たないということかなというふうに思います。

○議長（岡 弘悟君）15番 中本君。

○15番（中本正人君）ありがとうございました。

私は今、このあと、前市長の時代に杉村公園内にということをお聞きしようと思ったんですけども、今、副市長のほうからお話を聞きましたので、よろしいです。

ただ、私のお聞きしたい、言いたいことは、やはり本当にやろうと思えば、あらゆる工夫をこらえて、できるんじゃないのかな。ですから、この当ても諸条件が合わなかったという答弁もありましたけども、じゃ、どこまでやってくれたのかな。本当にやらなきゃいけないということはわかるんですけども、どこまで努力してくれたのかなというところが私は感じられないというんですか、失礼ですけども、というふうに私は感じるんです。その辺が少し寂しいなと思います。

そこで、今お聞きしたいのは、先ほど1回

目の答弁の中で、やはり合致せずとも農産物の販売所をやっぱり研究していきたいという答弁もいただきました。これも私なりに、やはり当局の前向きな答弁をいただいたんだなというふうには解釈しております。

しかし、私も議員としてもう15年になりますけども、当局の研究、検討というのはあまり好きではありません。ですから、この辺もやはりもう一度考え直してほしいなと思うし、やはりこれは部長ではしんどいと思うし、やはりここは市長に聞かなきゃあないなと思いますけども、この研究をしていこうというんじゃないじゃなくて、検討していこうというんじゃないじゃなくて、これに向かって努力していきますと、そういうことを市長の口から聞かせていただければ、私もそれなりの、あ、なるほどな、やってくれるんだな、近いうちにやってくれるんだなというふうにも感じますし、ただ、道の駅となれば、いろんな近隣の問題もありますので、今すぐとは言いません。しかし、これもこれで終わるんじゃないしくて、いつか将来はやっぱり本市にも道の駅を設置しようというお気持ちは持っていただきたいんですけども、とりあえず、きょうのこの今回の場合は、小さな農産物の販売所でも設置していただいて、そして、小売業の皆さんの、そして、農家の皆さんの所得の向上につながってほしいのになと思うんですけども、その辺、市長の口から明解なる答弁をいただいて、私、年内最後の質問として、そして、新しい年を迎えるにしても、気持ちよく新しい年を迎えられるように、市長の前向きな答弁をお聞きしたいと思いますけども、いかがでしょうか。お願いします。

○議長（岡 弘悟君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）中本議員の質問にお答えします。

私も就任当時は杉村公園の中にそれができへんかなということで、PFIの検討であったりいろいろしてきたんですけども、ただ、先ほど副市長が言いましたように、社会資本整備交付金が今3分の1ぐらいしかつなくなつたと。その時点でやめようかなと思ったんですけども、実は補助金をもろてあったということがわかって、これも1億5,000万円ほど返さなあかんというふうなことがわかったので、ここは何とか杉村公園を有効に活用するために、もう道の駅は断念して、観光案内所とトイレとというところ、そして子どもの遊び場をつくっていこうというふうな方針転換をしてきました。

先ほど出ました道の駅についても、確かに当市ではありません。ただ、やっちゃん広場、くにぎ広場等がありまして、その中で、じゃ、どこに道の駅をつくるというようなことになるのであれば、一番いいのは京奈和自動車道のあのインターチェンジのところだっと思います。でも、その当時は、橋本市としてあそこにつくるというふうな意思表示がなかったために、インターチェンジになったということだと思います。

今、道の駅の検討をせいということでしたので、私も、じゃ、どんな道の駅をつくるのかということをやっぱり考えていかなあかんのかなというふうに思っています。この道の駅をつくるということはJAの協力はいただけません。やっちゃん広場がありますので。その中で、そうしたらどれだけの魅力ある商品、施設ができるのかということも考えておかないと、つくったわ商品そろえへんわ、コミュニティスペースがどんなもんが要るんかというような検討も当然必要になってきます。

私はくにぎ広場でも全然満足してなくて、私は行ったら文句ばかり言うてるので、この品ぞろえはどういうことやというぐらい、

今でも思っています。やっぱりなかなか、くにぎ広場でも商品を集めるのに非常に苦慮しているなという思いもあります。

そういう中で本当に、つくことはいろいろ考えていけば可能やとは思いますが、ただ、ほんまにそういうような直売所という形で商品がそろわんというふうなことになる、くしがきの里も見せてもらいましたけども、やっぱりほかの地域から物産を注文して持って来ているのが現実であって、どれだけそうしたら地元の農産物をそこで売っているのかということになると、やっぱりなかなか難しい部分はあると思います。

これから道の駅も変化してくると思います。今、非常にお客さんが多いというのは、高速道路沿いのパーキングエリアの道の駅はすごい収益を、それもいろんな工夫をして上げていますので、直売所もこの近辺にこれだけたくさんできてくると、直売所だけではなくて、やっぱりアメニティ的な部分でどういうものができるのかというふうな検討もしていく必要があるのかなというふうに思いますので、何か違うような形態での、そこに人が集まってくるような形態での道の駅というのが、これからつくるとしたら、そういうふうな形態のものというの、今までと違う道の駅というふうなことが必要になってくるのかなと。

農産物をそこで売ったら、当然、やっちゃんの売り上げが減る、くにぎ広場の売り上げが減るとなることになりましても、あまり経済的なメリットというの少ないのかなというふうに思いますので、検討する中で、どういうふうな施設がこれから20年先を考えたときに必要な、どんな形の道の駅がいいのかなというの、つくったわ商品集まれへんというふうなものになってもあきませんし、そこ

に来てくれなかったら意味もありませんので、その中で、じゃ、橋本市にとってどういう道の駅がいいのかということは、一度、担当部局のほうで検討させていきたいと思いますが、それをいつかと言われますと、先ほどから財源の話ばかりしていますけども、非常に厳しい状況の中でやることもたくさん、優先順位をつけてやるということなので、そういう中でしっかりと議論した形で検討は進めていきたいと思います。

○議長（岡 弘悟君）15番 中本君。

○15番（中本正人君）ありがとうございました。

どこの道の駅においてもやっぱり地元の農産物でできる場所はないというのは私もわかっております。ただ、何回も言うように、やはり地域の活性化ということが私が一番望んでおること、そういうことからやっぱり人の集まる場所を設置してほしいなということですので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

その中で、先ほども言ひましたように、道の駅は今ちょっと無理としてでも、保留してもらおうとしてでも、答弁でありましたように、やはり農産物の販売所のほうは、これは早急にやっただけするように、ですから、研究じゃなしで、検討じゃなしでやっただきたいということだけは声を大にして申し上げまして、いいお正月を迎えられるかどうかというのはわかりませんが、この辺においてきょうの私の質問を終わりたいと思ひます。

ありがとうございました。

○議長（岡 弘悟君）15番 中本君の一般質問は終わりました。